河北仙販「私の新聞オーディション」入選

2010年 第4号 12月15日発行 総号数50

ふくらく通信

発行者 菅野香織

ご意見・ご感想はこちらへ
〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5
河北仙販内「ふくらく通信」まで
または、ネット版へ
河北新報社運営のウェブサイト「ふらっと」にて、ブログの「ふくらく通信・ネット版」を開設しています。「ふらっと」は会員登録無料。会員はコメントの書込み・メールができます。参加してみて下さいね。

師走 正月 昔と今

江戸 師走八日「事始め」

良い正月を迎えようと、年越しの準備が始まります。この日、なぜかはよく分らぬものの、「天から福が降ってきて、これを拾う」という、おまじないがあり、竿の先に、目籠をつけて外に立てたそうでございます。どうも、もともとは魔除けだったようでございますが、縁起を担ぐのが好きな江戸っ子ですから、「福を得る」方へ変化したのかもしれませんね。

師走十三日「煤払い」

武家も町家も、江戸中でこの日と決めておったようでございます。

これが、一年の塵や煤と共に、「厄を除く」ということで、ちょっとした儀式でもありまして、ご祝儀も出て、賑やかに行われたそうでございます。

初めは二十日だったのが、家光公が四月二十日に逝去して以来、二十日は忌日だからと、十三日に変わったという話もございます。

江戸城では、河しろ広うございますから、一日から十二日までかかり、祝儀を出す煤払いの儀式を、十三日に行っていたそうでございます。

これに倣って、江戸中が十三日に煤払いと決めていたようでありますな。

正月用のお餅

江戸っ子はひとつひとつ丸める手間を省いて、のし餅にしたのだとか。

本来は丸餅、心臓を象ったという話もある。長寿や健康を願うエウだ

(神鏡の円→丸い餅へ)

ちん餅とひきずり餅

江戸では15日までにもち菓子屋や搗米(当時の精米)屋に注文するらしい。もち菓子屋で売るのが「ちん餅」「ひきずり餅」は杵と臼を持って来てもちをついてもらうこと なんだって。

正月十一日「鏡開き」

江戸の師走は、あちこちで「歳の市」などもございまして、一年を無事に終え、豊かな実りをもたらす歳神様をお迎えしようと、町中に活気があったようでございます。

いよいよ明日になりまして、除夜の鐘を聞きますと、もう新年でございます。

正月には、方々で凧が揚りまして、その楽しげな風景が、広重の絵にも描かれております。

一家の円満や商売繁盛などを願って鏡餅を割って食べる日でして、武家では具足(甲冑)に供えた餅を振舞う「具足開き」があり、商家では、晦日に閉じた蔵を開く「お蔵開き」があったそうでございます。

当世の師走

町は、クリスマス飾りと正月用の品が入り混じっております。仙台では、「光のページェント」と申しまして、街路樹に美しい電飾を施した大きな催しが始まるのでございました。

夏は七夕。光のページェントは冬。そぞろ歩いて風情を楽しん

当世では、正月用の餅は、ほとんど店で買うものでして、威勢の良い餅つきの光景もめったに見ることがなくなりました。もしも見かけたら、愉快でしょうなぁ。

江戸の師走は、活気に満ちていたようで、我らも、明るく年を越したいものでございますね。

鏡開き お蔵開き 何で11日なの?

一説では、一一と書くと、観音開きで縁起が良いからというが…? これは定かでない

お蔵開きは新年の吉日を選んだらしく、『故実拾要』という書物には、十日～十五日の間の吉日で多くは十一日に神宮の奏事始があった旨が書かれており、これと同様なのかも。

当世の正月

年明け早々に働く人もおりまして、やはり二日には、大店の初売りで賑わう仙台であります。

当世の鏡開き

大抵は、鏡餅型の容器に餅が入っておりまして、蓋を開けて餅を出すという具合でして、実に手軽でございます。

とはいえ、この餅をしる粉にして食べるのは、楽しみなことですね。

歳神様の力を分けて頂き、楽しく過せますように。

参考：古事類苑 江戸繁昌記 江戸名所図会 東都歳時記 故実拾要 古地図ライブラリー3 江戸ものしり図鑑 大奥の謎 一日江戸人 日本鏡餅協会HP